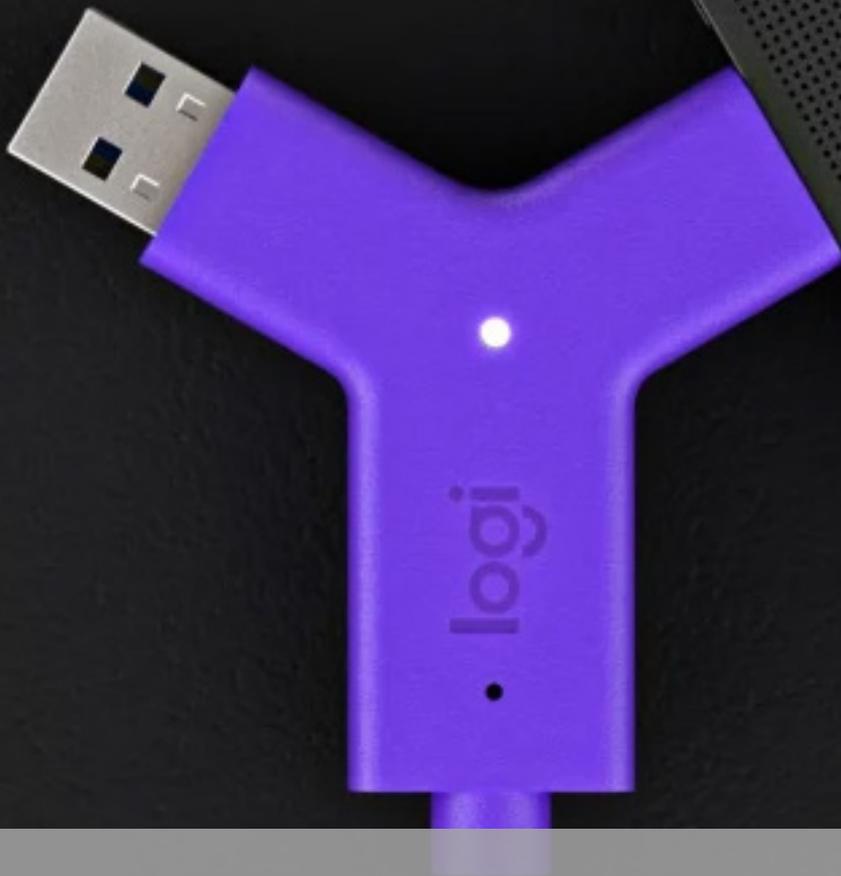


2020年11月



ロジクール Swytch

BYOD (Bring Your Own Device) サポート機能を PC ベースのビデオ会議室に追加する革新的な会議室ソリューションの現地テスト。



本評価のスポンサー：



背景

1981年に設立された Logitech International S.A.（日本法人：株式会社ロジクール）は、Web カメラ、キーボード、標準的な PC 用マウスやゲーミング用マウス、PC 用スピーカー、モバイルスピーカー、タブレット用アクセサリ、ホームコントロールデバイスやリモコンなどの PC 用周辺機器メーカーとして業界をリードしています。

ロジクールは、2011年にビジネスユーザ/エンタープライズユーザーを対象とした幅広い製品とアクセサリを提供する「Logicool Video Collaboration」事業部を設立しました。Recon Research のメンバーは、ロジクール BRIO、Logitech GROUP、[ロジクール MeetUp](#)、[ロジクール Rally](#)、[ロジクール Tap](#) など、同社の事業部が提供する数多くの製品を使用し、評価してきました。

2020年8月、ロジクールは Swytch を発表しました。これは、Zoom Rooms、Microsoft Teams Rooms、Google Meet ハードウェアキットなどのシステムにすでに接続されている会議室用の AV 周辺機器 (USB マイク、スピーカー、カメラ) を使用して、ノート PC 上でビデオ会議をホストできるようにする自動スイッチソリューションです。

2020年11月、ロジクールは Recon Research (RR) テストチームに、ロジクール Swytch の独立した第三者機関による評価の実施を依頼しました。

このドキュメントには、ロジクール Swytch の実地テストの結果が記載されています。

会議室ビデオの進化

過去 10 年に、会議室用のビデオ会議市場は、ハードウェア、ソフトウェア、総保有コスト (TCO)、効果を上げるまでの時間、使いやすさ、管理のしやすさなど、多くの分野で大きな変化を遂げました。

分野	過去	現在
ハードウェア	専用機	PCベースのシステム 標準オペレーティングシステム
ソフトウェア	専用機	標準オペレーティングシステムが稼働する PCで使用できるように設計されたアプリ
総保有コスト (TCO)	高額な初期費用 高額な運用費	安価な初期費用 安価な運用費
効果を上げるまでの時間	遅い - 数カ月	速い - わずか数時間
使いやすさ	使いにくい - 専用 UI、複雑なワーク フロー	使いやすい - 馴染みのある UI、効率的なワー クフロー (例: クリックするだけで参加可能)
管理のしやすさ	管理しにくい - 専用システム	管理しやすい - クラウドポータルを使用して シンプル
拡張性 (導入)	一般的に低い	非常に高い

図 1 : 会議室用ビデオ会議 - 過去 10 年間の変化

上記のような変化により、ビデオ会議は知的好奇心の対象から毎日数百万人の人が使用する主要なビジネスツールに変わりました。

しかし、そのツールにも業界 (とその関係者) を揺るがす構造上の変化が起こっています。すなわち、標準ベース (SIP、H.323) のビデオ会議システムから、Microsoft、Zoom、Google などのプロバイダーが提供するクラウドサービスプラットフォームを活用した、サービス付きのシステムに移行する流れです。

以下の図では、サービス付きのバンドルの例をいくつか紹介しています。



図 2 : Zoom、Teams、Google に対応したロジクール会議室ソリューション

上記の各ロジクール会議室ソリューションには、次のものが含まれています。

- 各サービスプロバイダーの会議室ソフトウェアアプリケーション (Zoom Rooms、Microsoft Teams Room、Google Meet) があらかじめ組み込まれたミニ PC
- ロジクール MeetUp システム (USB マイク、スピーカー、カメラシステム)¹
- 各ソリューションのユーザーインターフェースとして機能するロジクール Tap タッチコントロール

上記のバンドルは、いずれも素晴らしい機能とメリットを備えています。たとえば、購入が容易で費用対効果が高く、すぐに設置できることなどが挙げられます。

こうしたソリューションは、ユーザーにすでに知られている、または使用されているパーソナルコラボレーションアプリの会議室向けバージョンを使用しているため、非常に使いやすいというメリットもあります。デスクトップ PC、ノート PC、モバイルデバイスで Zoom Meetings をすでに使用しているユーザーは、慣れ親しんだ Zoom Rooms アプリを会議室で使用することを快適に感じるはずで、Microsoft Teams と Google Meet を使用している人にも同じことが言えます。

しかし、こうしたソリューションの多くはある根本的な問題を抱えています。それは、ユーザー体験をシンプルにして効率化するためのコラボレーションアプリが 1 つしかサポートされていないことです。² Microsoft Teams Rooms (MTR) システムがサポートしているのは MTR アプリのみです。Zoom Rooms (ZR) と Google Meet システムも同様です。

参加者が別のコラボレーションアプリを実行しているノート PC を会議室に持ち込んだ場合でも、こうしたビデオシステムの多くでは、そのノート PC を、会議室に設置されている AV 周辺機器やディスプレイに簡単には接続できません。

公平を期すために言うと、この単一アプリの「キオスク端末のような」アプローチには、ターンキー機能や優れた信頼性など、さまざまなメリットがあります。しかし、こうした長所は柔軟性を犠牲にした上でのものです。

では、一見閉ざされた会議室環境でユーザーが別のコラボレーションアプリを実行できるようにするにはどうすればよいのでしょうか。その問題を解決するのがロジクール Swytch です。

¹この調査における「USB ビデオシステム」は、外部 USB マイク、スピーカー、カメラを活用するシステムを指します。

²技術的には、管理者はこれらのシステム内に設置された PC に別のコラボレーションアプリをロードできます。しかし、標準的な会議室ユーザーは、こうしたサードパーティ製アプリには簡単にアクセスできません。

ロジクール Swytch について

ロジクール Swytch は、外部の USB 対応 AV 周辺機器 (マイク、スピーカー、カメラ) と HDMI ディスプレイを使用するビデオシステムが設置された会議室に、BYOD 機能を追加する自動スイッチソリューションです。³

BYOD (Bring Your Own Device) 会議とは、参加者のノート PC を使用して会議室内でのコラボレーションセッションをホストする会議のことです。

BYOD 機能を利用すれば、会議室に設置された USB 対応 AV 周辺機器を、ユーザーのノート PC で実行されるコラボレーションアプリ (Amazon Chime、BlueJeans Meetings、Cisco Webex、Facebook Workplace、Fuze Meetings、Google Meet、GoToMeeting、Microsoft Skype、Microsoft Teams、Zoom Meetings など) で使用できます。

実際、Swytch では、デフォルトでお客様が設定済みのコラボレーションアプリ (Zoom Rooms、Microsoft Teams Rooms、Google Meet など) を使用するビデオ会議室ソリューションが導入されますが、ユーザーのノート PC で稼働するコラボレーションアプリを使用することも可能です。

ロジクール Swytch は、USB 3.0 接続の Windows、Mac、Chromebook のノート PC で機能します。



図 3 : ロジクール Swytch - コネクタケーブル (左)、コネクタケーブル付きエクステンダーユニット (右上)、ハブ (左下)

ロジクール Swytch パッケージには以下のものが含まれています。

- ユーザーのノート PC に USB-C 接続と USB-A 接続を提供する Swytch コネクタ (Y 型) ケーブル。

³ BYOD 会議は、BYOC (Bring Your Own Codec) または BYOM (Bring Your Own Meeting) と呼ばれます。

- 会議室のテーブルの下に設置され、ノート PC の USB 信号とビデオ信号をハブに転送する Swytch エクステンダー。
- 会議室の前方に設置し、自動的に以下の信号を切り替えてシステムの交通整理の役目を果たす Swytch ハブ。
 - ホスト PC、設置された AV 周辺機器、会議室ディスプレイ間の信号 (ノートパソコンが Swytch コネクタケーブルに接続されていない場合)
 - ノート PC、設置された AV 周辺機器、会議室ディスプレイ間の信号 (ユーザーのノート PC が Swytch コネクタケーブルに接続されている場合)
- 各種 USB ケーブル、HDMI ケーブル、電源

ロジクール Swytch は、参考価格 107,470 円 (税抜) で販売されており、ロジクールの販売パートナーから購入可能です。

標準の Swytch パッケージには、エクステンダーをハブに接続する 5 メートル (16 フィート) の USB ケーブルが含まれています。大きな会議室の場合、または USB ケーブルを配線ダクトに通す場合、オプションのロジクール 10 メートルまたは 25 メートルのストロング USB ケーブルを使用してエクステンダーとハブの距離を延長できます。

システムの設置および構成

今回の評価のために、ロジクールから Recon Research に次の機器が提供されました。

- ロジクール Swytch パッケージ x 1
- Microsoft Teams Rooms (MTR) 用ロジクール小会議室ソリューション x 1
- Zoom Rooms (ZR) 用ロジクール小会議室ソリューション x 1
- Google Meet 用ロジクール小会議室ソリューション x 1

物理的な設置

当社の米国南フロリダのオフィスにある小会議室に上記のロジクール機器を設置しました。この会議室には、55 インチ 4K タッチディスプレイが設置されています。

まず、Microsoft Teams Rooms 用ロジクール小会議室ソリューションを設置しました (下図参照)。図のように、ロジクールストロング USB ケーブルを使用して、MTR ソフトウェアがあらかじめ組み込まれたミニ PC にロジクール Tap タッチコントローラを接続しています。



図 4 : ロジクール小会議室ソリューション - 設置図 - ロジクール Tap と MeetUp を接続

次に、テストコールを数回行い、システムが正常に動作していることを確認しました。

その後、ロジクール Swytch ソリューションを下図のように追加しました。

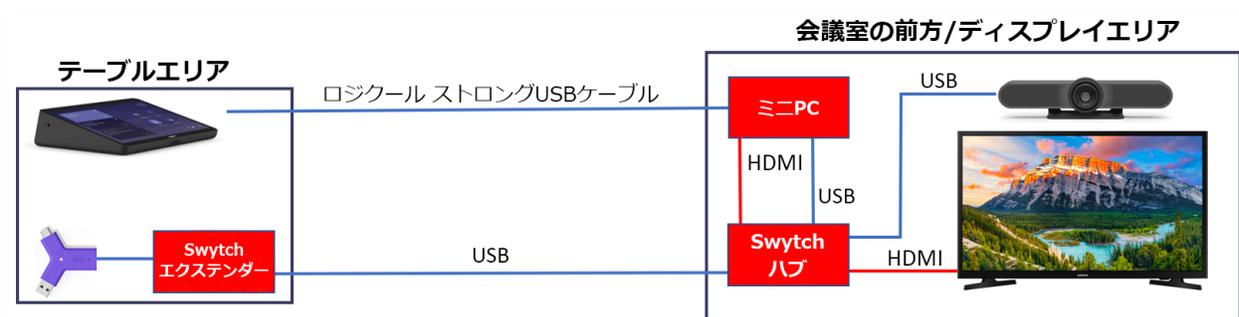


図 5 : ロジクール小会議室ソリューション設置図- ロジクール Tap、MeetUp、Swytch を接続

図のように、Swytch ハブには以下を接続します。

- ホスト PC (USB と HDMI 接続を使用)
- Swytch エクステンダー (USB 接続を使用)
- ロジクール MeetUp (USB 接続を使用)
- 会議室用ディスプレイ (HDMI 接続を使用)

これらを接続すると、Swytch ハブは、ノート PC が Swytch エクステンダーに接続されているかどうかを検知して、オーディオ、ビデオ、USB (制御) 信号を適切にルーティングします。

ロジクール小会議室ソリューションとロジクール Swytch を設置した際、これらのデバイスが設置しやすい設計になっていることに感銘を受けました。

たとえば、ロジクール Tap タッチコントローラには、デバイス背面の取り外し可能なカバーの裏に、ケーブルを通すためのくぼんだ部分があります。以下に示すように（下記の写真右の上部赤丸を参照）、電源ケーブル、HDMI ケーブル、USB ケーブルが、適度に緩めた状態でケーブルガイドにきれいに収まっています。



図 6 : ロジクール Tap - デバイスの背面に収まったケーブル

ロジクールは、ケーブルが損傷したり誤って外れたりしないように、半円形のケーブルガイド（上記の写真右の下部赤丸を参照）まで付属しています。

Swytch コンポーネントも設置しやすくなっています。たとえば、Swytch ハブ、Swytch エクステンダーと各電源にはすべて、はっきりわかるように、お馴染みのロジクールの青いステッカーが付いています。



図 7 : ロジクール Swytch エクステンダー - 一体型のテンションリリーフ機構に収まったケーブル

Swytch エクステンダーは、ロジクール Tap と同様のケーブルテンションリリーフ機構を使用しています。接続部はすべてくぼんだケーブルハッチ内に収まり、ケーブルはケーブルハッチの蓋で固定されます。ケーブルハッチの蓋を黒いネジで固定すると、ケーブルを取り外すことはほぼ不可能です。

また Swytch エクステンダーは、Swytch パッケージに付属したアンダーテーブルマウントかグロメットマウントのいずれかを使用してテーブルの下に取り付けられます。

さらに、Swytch にはグロメットマウントも付属しています。以下に示されているように、グロメットマウントをテーブルの穴とエクステンダー中央の穴に通します。最後に、Swytch コネクタケーブルをグロメットマウントの内側に通します。これで、特別な技術や道具を必要とすることなく、すっきりときれいに設置できます (テーブルにすでにグロメット用の穴が開いていることを前提としています)。



図 8 : ロジクール Swytch エクステンダー - グロメットマウントを使用してテーブルの下に設置

当社は、すべての会議室で安全にデバイスを取り付けられることや、適切にケーブルを管理できることを非常に重視しています。こうした点で、ロジクール Swytch は期待に応えてくれるものでした。

当社のテスト環境で上記の接続を行い、Swytch をロジクール小会議室ソリューションに追加するのに 15 分もかかりませんでした。実際の設置では、ケーブルを整理し、エクステンダーとハブ間に USB ケーブルを通すのにもう少し時間がかかるかもしれません。

右の図は、当社のテスト環境を正確に描いたものです。

赤字の A は Swytch ハブ、B は Swytch コネクタ、C はロジクール Tap タッチコントローラ、D はロジクール MeetUp を表しています。

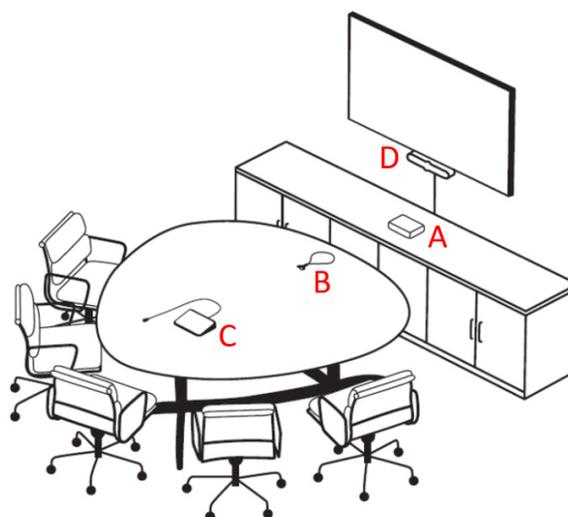


図 9 : ロジクール Swytch - 標準的な小会議室での設置

追加コメント - ロジクール Swytch は設置後、すぐに使用できます。アップデートや設定用のソフトウェアはありません。

実地テスト

合計で、12種類のハードウェアを組み合わせ、ロジクール Swytch をテストしました (3つの会議室ソリューション x 2台のノート PC x 2台のUSB対応AVデバイス)。

会議室ソリューション	BYOD ノートパソコン	USB 対応 AV デバイス
Microsoft Teams Rooms (MTR) Zoom Rooms (ZR) Google Meet	Windows (Lenovo ThinkPad) macOS (MacBook Pro)	ロジクール MeetUp (小会議室用) ロジクール Rally (中会議室用)

図 10 : ロジクール Swytch - テストされたハードウェアの組み合わせ

まず、Microsoft Teams Rooms 用ロジクール小会議室ソリューションでテストを始めました。

ステップ 1 - 設置されたミニ PC のデフォルトコラボレーションアプリ (この場合は Microsoft Teams Rooms) を使用して数回コールしました。

ステップ 2 - Swytch コネクタを Windows ノート PC の USB ポートに接続しました (右図参照)。⁴

数秒後、Swytch はノート PC を検出し、ノート PC、ロジクール MeetUp、会議室のディスプレイ間の接続を確立しました。

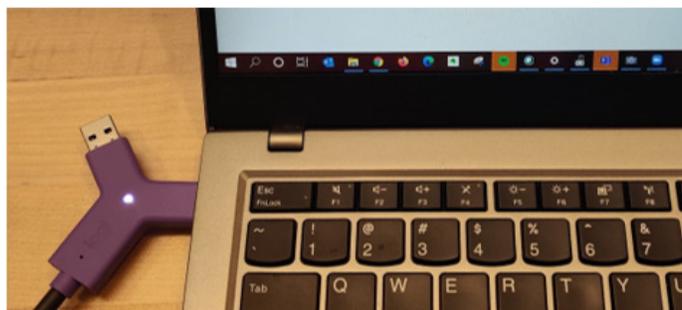


図 11 : ロジクール Swytch コネクタ - Windows ノートパソコンに接続

ステップ 3 - Windows ノート PC、MeetUp のマイク/スピーカー/カメラ、会議室のディスプレイ、さまざまなプロバイダーのコラボレーションアプリ (BlueJeans Meetings、Cisco Webex、Google Meet、Microsoft Teams、Zoom Meetings など) を使用して BYOD コールを数回行いました。

ステップ 4 - Windows ノート PC から Swytch コネクタを外しました。数秒後、Swytch によって、USB と AV 接続がノート PC から設置されたミニ PC に切り替わりました。

ステップ 5 - ミニ PC でデフォルトのコラボレーションアプリを使用して、もう 1 度テストコールを行いました。

⁴ Windows ノート PC で、ロジクール Swytch コネクタの USB-A 接続と USB-C 接続の両方をテストしました。

ステップ 6 - Swytch コネクタを MacBook Pro の USB ポートに接続しました。想定通り、数秒後には、MacBook、ロジクール MeetUp、会議室のディスプレイ間の接続が確立されました。

ステップ 7 - macOS ノート PC、MeetUp のマイク/スピーカー/カメラ、会議室のディスプレイ、さまざまなプロバイダーのコラボレーションアプリを使用して BYOD コールを数回行いました。

Microsoft Teams Rooms のテストが完了後、Zoom Rooms を使用するように環境を再設定し、上記のステップをすべて繰り返しました。

次に、Google Meet ハードウェアキットを使用するよう環境を再設定し、同じステップを繰り返しました。

今回は、ロジクール MeetUp をロジクール Rally システムに置き換え、ロジクール中会議室ソリューションを使用するように環境を再設定しました。

3つの会議室ソリューションでそれぞれ上記のテストを繰り返しました。

3つの会議室ソリューションおよび、ロジクール MeetUp とロジクール Rally 両方の USB 対応 AV デバイスを使用したすべてのケースで、Windows と Mac の両方のノート PC から BYOD ビデオコールを実施できました。ロジクール Swytch は完璧に機能しました。

当社のテストを通じてロジクール Swytch は完璧に機能し、Windows と Mac の両方のノート PC で高品質の BYOD ビデオコールを実施できました。

特に優れているのは、Swytch を利用することで、ユーザーに過度な負担を与えることなく、ノート PC (BYOD 対応) からビデオ会議を行えるという点です。BYOD 会議を行うためにユーザーがする必要があるのは、ノート PC に 1 度 USB 接続することだけです。非常にシンプルです。

当社のテストにより、次のような Swytch のその他の機能やメリットが明らかになりました。

- **4K 対応** - 4K に対応しているということは、Swytch によってビデオの画質が落ちることがなく、一般消費者向け、プロフェッショナル向けいずれの AV デバイスやシステムにも対応できることを意味します。

- **デュアル USB コネクタ** - Swytch コネクタは USB-A と USB-C 接続の両方を提供しているため、アダプタやインターフェースが不要で、事実上すべてのノート PC に対応できます。
- **ノート PC の充電** - Swytch コネクタは、接続したノート PC を充電できるため (USB-C で最大 60w)、ユーザーは電源が不要で、コール中にノート PC が停止することはありません。
- **DisplayLink の統合** - Swytch に DisplayLink テクノロジーが統合されているため、ユーザーは 1 本のケーブルをノート PC に接続するだけです。この USB 接続により、必要な音声、映像、制御信号がすべて伝送されます。⁵
- **ロジクールストロング USB ケーブル** - 状況によっては、Swytch パッケージに付属している 5 メートルの USB ケーブルでは長さが足りないことがあります。幸い、ロジクールは、10 メートルや 25 メートルの互換性があるストロング USB ケーブルを提供しています。ストロングケーブルは壁内、天井の上、配線管、配線ダクトへの設置するための、プレナム規格と Eca 認定を取得しています。
- **USB デバイスに依存しない** - テストの一環として、USB ハブを Swytch ハブの「USB-A AV」ポートに接続しました。その後、ロジクールやその他の USB Web カメラとマイク/スピーカーデバイスを USB ハブに接続しました。これらの USB 対応 AV 周辺機器でも Swytch は同様に正しく動作しました。
- **コラボレーションアプリに依存しない** - BYOD のテスト中、ノート PC 上でさまざまなパーソナルコラボレーションアプリを使用しました。Swytch はそれぞれのアプリケーションで正常に動作しました。

⁵ ノート PC を初めて Swytch で使用する場合、複数のドライバー (DisplayLink ドライバーなど) をインストールする必要があります。WindowsPC では自動的にインストールされます。Mac ノート PC では、DisplayLink ドライバーを手動でダウンロードする必要があります。あるいは、各企業、組織での共通した Windows バージョン維持の一環として、必要なドライバーをあらかじめインストールしておくことも可能です。

Swytch が原因ではありませんが、今回のテストでは、ユーザー体験に影響する可能性がある小さな問題もいくつか明らかになっています。

- Swytch コネクタをノート PC に接続しても、設置済みのミニ PC で進行中のコールが自動的に切断されませんでした。
- BYOD モードで Swytch を使用している間、ロジクール Tap タッチコントローラには、設置されたミニ PC のプライマリコラボレーションアプリのユーザーインターフェースが表示されるため、一部のユーザーが混乱する可能性があります。
- 一部のケースでは、ノート PC は自動的に適切なマイク、スピーカー、カメラソースを選択しませんでした。この問題は、コラボレーションアプリ内で適切なソースを選択することで、すぐに解決できます。
- 設置されたミニ PC とノート PC 間の切り替えが早すぎると、問題が発生することがあります。

幸い、常識に従ってシステムを正しく利用すれば、こうしたオペレーティングシステム関連の問題は完全に解消されるか、軽減されます。⁶

全体として、当チームはロジクール Swytch の設計、設置、ユーザビリティ、パフォーマンスに非常に満足しました。

リモートモニタリング/管理

ロジクール Swytch は、ロジクールのクラウドモニタリングプラットフォームであるロジクール Sync と連携します。

今回のケースでは、Microsoft Teams Rooms 用のロジクール小会議室ソリューションをあらかじめ設定し、ロジクール Sync アカウントと連携させました。その結果、Swytch を設置すると、自動的に Sync アカウントに追加されました。⁷

以下のロジクール Sync のスクリーンショットが示すように、Sync は、設置されたミニ PC (「Room (会議室)」)、MeetUp デバイス、Tap コントローラ、Swytch など、ロジクール小

⁶ Recon Research では、ロジクールが会議室システムのパートナーと連携して、こうした問題に取り組んでいることを把握しています。

⁷ ミニ PC 上で実行されるロジクール Sync エージェントは、ロジクール Sync クラウドと会議室に設置されたデバイス (ロジクール製デバイスおよびサポートされているサードパーティ製デバイス) 間を連携する機能を担います。

会議室ソリューション内のさまざまなデバイスを常にモニターします。緑の丸は、各デバイスが正常に動作していることを示しています。

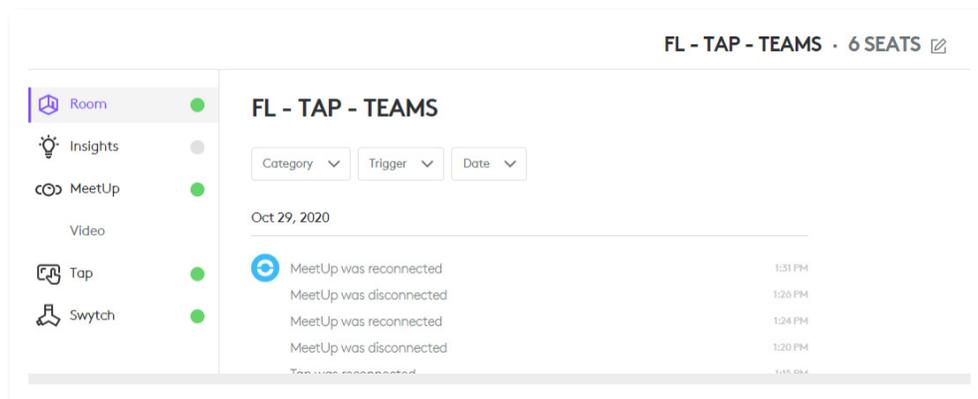


図 12 : ログルール Sync - MeetUp、Tap、Swytch デバイスを監視

Swytch をノート PC に接続すると、Sync は、MeetUp デバイスが会議室システムから切断されたことを示しました (以下のスクリーンショットの赤丸参照)。設置されたミニ PC 側から見れば、技術的には間違いではありませんが、これでは十分ではありません。

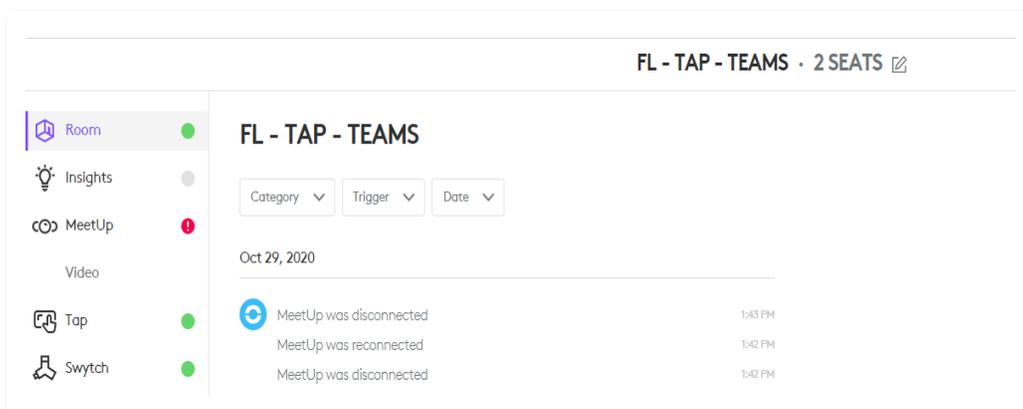


図 13 : ログルール Sync - MeetUp がオフラインであることを示す

この場合 Swytch は、MeetUp の接続をミニ PC からノート PC にルーティングしなおしています。そのため、MeetUp デバイスは実際にオンラインで動作していますが、BYOD セッション用のノート PC で使用されている状態です。

Swytch デバイスが自動的に検出され、Sync アカウントに追加されたことには満足しましたが、Swytch が BYOD モードになったことが Sync から管理者に通知されると理想的です。

分析結果と考察

ロジクール Swytch は、4K 対応の USB 3.0/HDMI スイッチソリューションです。Microsoft Teams Rooms、Zoom Rooms、Google Meet ハードウェアキットなどの PC ベースの会議室用ビデオ会議システムに、1 本のケーブルで BYOD 機能を追加できます。

つまり、Swytch を利用すれば、ユーザーはサードパーティ製のコラボレーションアプリをサポートしていないビデオ会議室で、自分のノート PC 上のコラボレーションアプリを使用してビデオ会議を行えるということです。これにより、一見閉ざされたビデオ環境の柔軟性が大きく増します。

Swytch には、4K 対応、USB-A と USB-C 両方でのノート PC 接続、単一ケーブル接続、ノート PC 充電、ネイティブ DisplayLink サポートなど、注目に値する多くの機能が備わっています。ロジクール Sync 管理プラットフォームを使用すれば、Swytch をリモートからモニターして管理することも可能です。

また Swytch は、AV の専門家でなくても特別なツールなしに、素早く簡単に設置できるように設計されています。

この評価作業を円滑に進めるため、ロジクールから Recon Research チームに対して、ロジクール Swytch システムやさまざまなロジクールデバイスが提供されました。

この作業の一環として、当テストチームはさまざまなコールプラットフォームと 12 種類のハードウェア構成で数百回に及ぶビデオコールを行いました。

すべてのケースで、ロジクール Swytch は期待通りに機能しました。例外はありませんでした。

多数のコールプラットフォーム、ハードウェア構成を利用したすべてのテストを通じ、ロジクール Swytch は完璧に機能しました。

これまで、現世代の PC ベース会議室ソリューションを導入した組織は、使いやすさとパフォーマンスのメリットを享受していましたが、多くの場合アプリケーションの柔軟性が犠牲になっていました。

当社のラボでロジクール Swytch の性能を試したことで、当チームはこの調査で最初に投げかけた疑問にはっきりと答えることができるようになりました。

一見閉ざされた会議室環境でユーザーが別のコラボレーションアプリを実行するにはどうすればよいのでしょうか。

答えは簡単です。ロジクール Swytch を約 10 万円で導入し、会議室にマルチプラットフォームサポート機能を追加することです。

ロジクールについて



(下記の情報はロジクール提供)

株式会社ロジクールは、スイス連邦のローザンヌに本社を置く、人々にデジタルエクスペリエンスを提供する世界的なリーディング企業、Logitech International が 100%出資する日本法人です。さまざまなプラットフォームに対応する多彩なハードウェアとソフトウェアを通じて、デジタル機器を使った生活をより快適なものにします。コンピュータのコントロール製品をはじめとして、ミュージックやビデオ、ゲーミングなど多岐にわたる製品やサービスを、35年以上に渡って提供しています。

ロジクールのビデオコラボレーションの目標は、品質を犠牲にすることなく、すべての企業とすべての個人がアクセスできるビデオ会議ソリューションを手頃な価格で提供することです。すべての会議室、ワークスペース、自宅でビデオを活用できるようにしたいと考えています。ロジクールとビデオコラボレーション製品の詳細については、www.logicool.co.jp/vc、[ブログ \(英語\)](#)、[@LogicoolVC \(Twitter - 英語\)](#) をご覧ください。

Recon Research について



Recon Research (RR) は、企業のコミュニケーション分野に焦点を当てた分析/市場調査会社です。当社は、ユニファイドコミュニケーション、ビデオ会議、コラボレーションとアイデンティティ、AV ソリューション、ワイヤレスプレゼンテーションなどを対象にしています。

RR は、企業のお客様、ベンダー、チャネルパートナー、プロの投資家の方々に、事実に基づいて意思決定するために必要な情報と洞察を提供しています。

RR は、15年以上にわたる企業ブリーフィング、市場分析、対象分野の製品およびサービスの実地テストに基づく深い知識と経験で、他社と一線を画しています。

詳しくは、www.reconres.com をご覧ください。

連絡先情報

Recon Research, Inc.
11910 Lake House Lane
Parkland, FL 33076 USA

著作権通知

本ドキュメント内の情報は Recon Research, Inc.(RR) に
帰属し、米国および国際著作権法によって保護されてい
ます。

商標通知

本刊行物に記載されているすべての企業、製品、サービ
ス名は、各所有者の商号、商標または登録商標です。

画像・グラフィック

本刊行物で使用されているすべての画像とグラフィック
は、RR または各所有者の厚意によって作成、所有、ライ
センスされたものです。